

令和4年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	日本共産党上田市議団
事 業 名	第48回議員の学校
事 業 区 分	①研究研修 ②調査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

研修会のテーマが「自治体財政の基本を知ろう!」と「2023年度予算審査のポイントと自治体財政の課題」、さらに「地域経済・住民生活の困難と政治活動の展開」であったため、直前の3月議会および予算審議などに役立つ内容と考え受講することにした。

2 実施概要

○開催状況は以下の通りです。

日付/時間帯/場所	視聴方法	ZOOM 視聴であり、場所の指定はない。
2月15日(水) 第一日目 10:30~17:10	ZOOM 視聴	<p>(講義のテーマ)</p> <p>講義1 自治体財政の基本を知ろう!</p> <p style="text-align: center;">森 裕之氏(立命館大学)</p> <p>(講義内容レジュメ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自治体財政の全体像 ○自治体財政のルール ○自治体財政を理解する要点 ○財政用語は常識で判断する ○自治体財政の全体像 ◆歳入 ○地方財政の歳入の内訳(2020年度決算) ・家計で理解する財政(歳入編) ・自治体の歳入(家計による理解) ・一般財源と特定財源 ・なぜ一般財源が重要なのか ○地方税 ・税金の種類と税率は議会が決められている

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の地方税(市町村、2020 年度) ・日本の地方税(道府県、2020 年度) ・覚えておきたい地方税の区分 ・超過課税の状況 ・法定外税の状況 ・地方交付税と臨時財政対策債 ○地方交付税とは ・地方交付税はペットボトルに注ぎ込まれるお茶で覚える ・地方交付税の実際の制度 ・それでも税収は多いほうが良い理由(その訳は留保財源にある) ○臨時財政対策債のイメージ ・基準財政需要額と自治体の予算・決算との関係 ・国は臨時財政対策債を返してくれるのか(モデルによる説明) ○国庫支出金(補助金) ・国庫支出金(補助金)は使い道が決められた仕送り ・国庫支出金(補助金)の基本的な仕組み ・国庫支出金の事例(社会保障制度) ・国庫支出金(補助金)は何が問題か ・議会として国庫支出金をみるポイント ○地方債とは ・地方債は住宅ローンと瓜二つ ・地方債の基本的な仕組み ・地方債充当率と交付税措置率の関係 ・国庫支出金と地方債の組み合わせ ◆歳出 ○歳出の原則 ・歳出は目的別歳出と性質別歳出の2つ ・目的別歳出の説明 ・都道府県と市町村の目的別歳出構成比(2020 年度) ・性質別歳出の説明 ・都道府県と市町村の性質別歳出構成比(2020 年度)
--	--

<p>日付/時間帯/場所 2月16日(木) 第二日目 9:55~16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出をみる場合の注意点(総論) ・歳出をみる場合の注意点(各論) ・下水道事業への繰出の例 ・特別会計の住民負担を考える <hr/> <p>講義2 2023年度予算審査のポイントと自治体財政の課題 森 裕之氏(立命館大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自治体財政を支える仕組み ○2023年度地方財政計画(歳入) ○地域社会のデジタル化の推進 ○地域の脱炭素化の推進 ○主な公共施設等適正管理推進事業の財政措置 ○防災・減災のための取組の推進 ○地方への人の流れの拡大の推進 ○物価高騰への対応 ○2022年度補正予算における地方財政措置 ○2023年度の主な地方歳出 ○国の一般会計歳出の変化(2022年度⇒2023年度) ○平和国家への転換へ ○予算審査と自治体財政の課題 <p>講義二日目 地域経済・住民生活の困難と政策活動の展開 池上 洋通氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地方自治体の政策活動の原則—憲法と地方自治法 ・憲法の定める原則から ・地方自治法の原則規定 ○いま日本が直面している社会的・政治的課題 ・国際的課題 ・防衛政策の転換 ○広がり続ける貧困化とその影響
---	--

◆上田市政に活かせる課題等

<講演、分科会および講座において講座の共通していることおよび上田市に活かせること>

① 第一日目

森裕之氏（立命館大学）の第一講義の「自治体財政の基本を知ろう！」

「日本一わかりやすい地方財政」というだけあって、独自の絵解きを使ってわかりやすい講義でした。

自治体財政の唯一のルールは「赤字にしないこと」（当該年度の自治体の財布の管理ができていないだけでなく、赤字予算は組むことができない）

赤字にしない（歳入>歳出）のであれば、どの歳出項目に財政を支出するのかは、当該自治体の優先順位の問題にすぎない。この原則は家計でもまったく同じである（同じ家族構成であっても、毎月の支出の中身はみんな異なっている）

議会の役割は、行政による財政管理のチェックと、施策の優先順位の決定である。

「優先順位の決定のために、議会による話し合いがある」とされ、議会審議の意義も分かるものでした。

② 森裕之氏（立命館大学）の第二講義の「2023年度予算審査のポイントと自治体財政の課題」

「地域社会のデジタル化の推進」、「地域の脱炭素化の推進」、「地方への人の流れの拡大の推進」、「物価高騰への対応」、「2022年度補正予算における地方財政措置」について、政策の背景や具体的な数字を示した内容であり、上田市政の論議にも役立つものでした。

③ 講義二日目

池上洋通氏 「地域経済・住民生活の困難と政策活動の展開」

池上氏の講義は、久しぶりの受講でした。憲法や地方自治法の原点にたった講義は、改めて地方自治の重要さを振り返る機会になりました。

とりわけ、地方自治法第1条 「この法律は、地方自治の本旨に基いて、（中略）地方公共団体における民主的にして能率的な行政の確保を図るとともに、地方公共団体の健全な発達を保障することを目的とする。」

④ まとめ

今回の講義では、チャットにより質問と回答を得ることができました。市議会総務文教委員会では、法人市民税の「超過税率」について議題となったこともあり、質問・回答をしてもらいました。

池上氏にの講義の中では、現在上田市が方針として打ち出している「上田市使用料等算定に係る受益者負担のあり方に関する基本方針」についてどう考えるかのヒントをもらいました。

また、府中市議の目黒重夫氏の議員経験者を通じての実践と報告も参考になりました。

50
tamaken
Change!
その先に輝く政府への道

多摩研

第**48**回
議員の学校

●主催 NPO法人多摩住民自治研究所
オンライン 会場定員6人(先着順)
「見逃し配信あり」(2023年4月末まで)

●会場:日野・市民自治研究所
(ゆのした交流センター内、JR中央線・日野駅より徒歩3分)
http://hino-shiminjichi.jp/xoops/modules/pico/index.php?content_id=6

2023
2/15(水)
/16(木)

**よくわかる自治体財政の
基本から応用まで**

2023年度国家予算の傾向と
自治体予算審査の肝

コロナ禍が続く中、かつてない補正予算と税収増によって膨らむ予算規模と基金残高。一方で厳しさを増す住民生活。一人ひとりの暮らしによりそうために、今こそ学びたい“よくわかる”“そうだったのか”の自治体財政。

- 1 “よくわかる” 森裕之教授の
国と地方財政の「基本」と実際の「新年度予算」
これからの地方財政のあり方
- 2 “そうだったのか” 長年の議員経験者の
「予算審査の要点」などの報告
- 3 “そうだったのか・よくわかる” 池上洋通学校長の
地方自治原則を踏まえた「自治体の政策活動」

「第48回議員の学校」にご期待ください。

「議員の学校」とは 多摩住民自治研究所[多摩研]の「議員の学校」は、「住民と地域に役立つ地方議員になりたい」という議員の皆さんの声にこたえ、「政党支部を問わずに、だれもが参加できる学校」として始められました。平成21(2009)年のことです。幸いにして、各地の議員の皆さんの積極的なご参加と、協賛された各分野の講師の方々のすぐれた講話によって、かけがえのない学びを重ねてまいりました。



講師プロフィール **議員の学校**

■ 集中講義1・2 森 裕之(もり ひろゆき)氏



1967年生まれ。地方財政、公共政策の理論活動の第一線に立つ研究者で、「市町村や都道府県の財政が住民生活や企業活動にどのような影響を及ぼすか」を実験的に検証し、注目をあびてきました。著書や論文、幅広い講演活動によって、地方財政改革、公共事業、公共政策について積極的な発言をしています。

■ 著書

『自治体財政を診断する——「財政状況資料集」の使い方(仮題)』(2022 自治体研究社)、『市民と議員のための自治体財政——これでわかる基本と勘所』(2020 自治体研究社)、『初歩から分かる総合区・特別区・合区』(共著 2017 自治体研究社)、『公共施設の再編を問う』(2016 自治体研究社)、『大都市自治を問う』(共著 2015 学芸出版社)、『地域共創と政策科学』(共著 2011 見洋書房)、『検証・地域主権改革と地方財政』(共著 2011 自治体研究社)ほか多数。

■ 実践報告と提言 目黒重夫(めくろ しげお)氏



1948年福島県生まれ。コンピューターサービス会社勤務を経て、1991年府中市議当選、以降7期務め20年府中市長選に立候補。現在、多摩住民自治研究所理事。

■ シリーズ講義(6) 池上洋通(いけがみ ひろみち)氏



1941年静岡県生まれ。講師は自治体職員、研究機関常勤役員、千葉大学教育学部非常勤講師(社会教育原論)などの経験を持つ地方自治理論・政策の実践的研究者。著書・論文は地方自治体論をはじめとして、保健医療、社会福祉、教育、防災など、自治体政策の全分野にわたります。

■ 著書

『人間の顔をしたまちをどうつくるか』(自治体研究社)、『生きたかった——相模原障害者施設殺傷事件が問いかけるもの』(共著 大月書店)、『「学び」を止めない自治体の教育行政』(共著 自治体研究社)ほか多数。

◆ 第1日 2月15日(水)

- 10:30 ~ 10:40 開会のあいさつ、ガイダンス
- 10:40 ~ 12:00 **集中講義1**(講義60分、質疑応答20分)
- 12:00 ~ 13:00 お昼休み(60分)
- 13:00 ~ 15:00 **集中講義2**(講義100分、質疑応答20分)
- 15:00 ~ 15:10 休憩(10分)
- 15:10 ~ 17:00 **実践報告と提言**(講義90分、質疑応答20分)
- 17:00 ~ 17:10 連絡事項、写真撮影

◆ 第2日 2月16日(木)

- 9:55 ~ 10:00 ガイダンス
- 10:00 ~ 11:40 **シリーズ講義(6)**(講義100分)
- 11:40 ~ 12:40 お昼休み(60分)
- 12:40 ~ 12:55 グループワーク準備(15分)
- 12:55 ~ 14:35 **グループワーク(100分)**(前半40分/後半40分/発表20分)
- 14:35 ~ 14:45 休憩(10分)
- 14:45 ~ 15:45 **まとめ・全体にわたる質疑応答(60分)**
- 15:45 ~ 16:00 閉会のあいさつ等(15分)

program
プログラム

